

令和7年度富山県環境科学センター研究課題評価について

I 目的

県の試験研究機関においては「富山県試験研究機関研究評価の実施に係る指針」に基づき、平成16年度から研究課題評価制度を導入しており、客観的かつ透明な研究評価を行うことで、研究の効率化や研究開発等の活性化を図るとともに、社会的要請に基づく試験研究活動を行っています。

環境科学センター（以下「センター」といいます。）では、本指針に従い、「富山県環境科学センター研究課題評価実施要領」（以下「要領」といいます。）を策定し、研究課題の評価に関し、必要な事項を検討・協議するため、研究課題内部評価委員会（以下「内部評価委員会」といいます。）を、また、外部からの専門的・客観的な意見を取り入れるため、研究課題外部評価委員会（以下「外部評価委員会」といいます。）を開催しています。

II 研究課題評価の流れ

研究課題評価は、原則としてセンターが実施するすべての研究課題を対象としています。これらの中から、要領に定める評価区分に従い、評価対象課題を抽出しました。

評価対象課題は次のとおりです。

事前評価・・・新たに設定しようとする研究課題について、実施の必要性等の評価	
(2 課題)	① 長期再解析データを用いた気候変動に関する研究(Ⅱ) ② 富山県におけるマイクロプラスチックの年代特定及び地域特性把握
事後評価・・・研究期間が終了した研究課題について、研究成果等の評価	
(3 課題)	① 消雪設備による地下水低下リスク評価 ② 富山湾沿岸海域の藻場における二酸化炭素吸収量の評価 ③ 光化学オキシダント常時監視データの総合的解析～日変動値の予測～

評価は、内部評価委員会及び外部評価委員会により、要領に定める方法で行いました。

(内部評価委員会)

研究課題評価に関して必要な事項を検討・協議する委員会。担当職員からのヒアリングや研究課題評価調書に基づき研究課題を評価するとともに、外部評価委員会に諮る研究課題を決定します。

(外部評価委員会)

重要な研究課題について、評価の客観性・透明性を確保すべく、専門的・客観的な意見を聞くための委員会。県内外の大学、研究機関及び団体から専門的知識を有する方をセンター所長が選任し、委嘱しています。

また、内部評価委員会及び外部評価委員会において示された評価結果に対して、センターが所要の対応策を検討するとともに、評価結果をセンターの年報やホームページで公開することになっています。

Ⅲ 内部評価委員会

1 開催日時・場所

日時：令和7年6月16日（月）から6月30日（月）まで

場所：書面開催

2 評価方法

評価方法は、評価区分ごとに定められた評価項目及び総合評価についてそれぞれ5段階評価とし、次の評価基準に従い評価を行いました。

		事前評価	中間評価	事後評価	追跡評価
個別評価	評価項目	・必要性 ・新規性・独創性 ・年次計画の適切性 ・経費の妥当性 ・期待される成果 ・実現の可能性	・進捗度 ・実現の可能性 ・成果の活用策	・目的の達成度 ・成果の有用性 ・成果の活用策	・成果の活用
	評価基準	5点 良好、4点 概ね良好 3点 普通、2点 一部見直し 1点 全面見直し		5点 十分な成果 4点 成果あり 3点 普通 2点 成果不十分 1点 成果なし	5点 成果が予想以上活用 4点 成果が十分活用 3点 概ね成果が活用 2点 成果がほぼ活用されていない 1点 成果がまったく活用されていない
総合評価	評価基準	4－5点	良好	十分な成果	成果が予想以上活用
		3－4点	概ね良好	成果あり	成果が十分活用
		2－3点	普通	普通	概ね成果が活用
		1－2点	一部見直し	成果不十分	成果がほぼ活用されていない
		1点	全面見直し	成果なし	成果がまったく活用されていない

3 評価結果

上記Ⅱの5課題について評価を行ったところ、その総合評価は次のとおりでした。

（事前評価）

- ① については、4.4（良好）であり計画どおり実施。
- ② については、3.6（概ね良好）であり計画どおり実施。

（事後評価）

- ① については、4.6（十分な成果）であり十分な研究成果が得られている。
- ② については、4.3（十分な成果）であり十分な研究成果が得られている。
- ③ については、3.2（成果あり）であり一定の研究成果が得られている。

また、評価を行ったすべての課題が重要な研究課題として、外部の専門家に意見を聞く必要があるとされたため、5課題について外部評価委員会に諮ることとしました。

Ⅳ 外部評価委員会

1 開催日時・場所

日時：令和7年8月26日（火）13時30分から16時まで

場所：薬事総合研究開発センター2階会議室

2 委員

区 分	委 員 名	役 職 等	備考
大 学	楠 井 隆 史	公立大学法人富山県立大学 名誉教授	座長
	高 橋 ゆかり	学校法人 富山国際学園 富山国際大学 現代社会学部 教授	
	袋 布 昌 幹	独立行政法人国立高等専門学校機構 富山高等専門学校 物質化学工学科 教授	
	和 田 直 也	国立大学法人富山大学研究推進機構 サステイナビリティ国際研究センター 教授	
研究機関	菅 田 誠 治	国立研究開発法人国立環境研究所 企画部 フェロー	
	高 橋 克 行	一般財団法人日本環境衛生センター 東日本支局 環境科学部 部長	
	中 山 忠 暢	国立研究開発法人国立環境研究所 地域環境保全領域 上級主幹研究員	
有 識 者	柳 田 貴 広	公益財団法人環日本海環境協力センター 専務理事	
	奥 敏 朗	富山県環境問題懇談会 日本高周波鋼業株式会社 富山製造所 安全環境防災室 室長	

3 評価方法

評価方法は、内部評価委員会と同じ評価基準に従い評価を行いました。

4 評価結果

評価結果は次のとおりで、総合評価（個別評価結果の平均値）を会の判定としました。研究課題別の評価結果は、研究課題評価調書を参照してください。

研 究 課 題		総合評価（委員数）				判 定
		1-2	2-3	3-4	4-5	
事前評価	① 長期再解析データを用いた気候変動に関する研究(Ⅱ)			3	6	4.4
	② 富山県におけるマイクロプラスチックの年代特定及び地域特性把握		1	5	3	3.8
事後評価	① 消雪設備による地下水低下リスク評価				9	4.9
	② 富山湾沿岸海域の藻場における二酸化炭素吸収量の評価			2	7	4.3
	③ 光化学オキシダント常時監視データの総合的解析～日変動値の予測～		1	7	1	3.7

V 環境科学センターの対応

事前評価①については、良好であり計画どおり実施していきます。

事前評価②については、概ね良好であり計画どおり実施していきます。

事後評価①、②については、十分な成果が得られたことから、その普及や活用に努めていきます。

事後評価③については、一定の成果が得られたことから、その普及や活用に努めていきます。

なお、各研究課題に対する意見については、効率的な研究の推進に生かすとともに、今後の研究計画に十分に反映させていきます。